

市民参加実施記録

案件	第七次伊達市総合計画策定に係る住民説明会（黄金）
市民参加の方法	説明会
実施日時 及び場所等	・平成30年7月23日（月）18時30分～20時30分 ・黄金地区コミュニティセンター「はまなす館」
所管部課名	企画財政部企画課
<p>【概要】</p> <p><出席者></p> <p>市：市長、副市長、教育長、総務部長、健康福祉部長、経済環境部長、建設部長、建設部参与、教育部長、教育部参与、議会事務局長、企画財政部長、企画課長、財政課長</p> <p>住民：36名（別紙のとおり）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長挨拶 3. 総合計画概要説明 4. 意見交換 <p>【住民】</p> <p>人口減少は気にする必要はないと思う。伊達市は土地面積に余裕があり、北の湘南と呼ばれるほど住みやすく、最低気温と最高気温の差も小さくなく、夏も冬も過ごしやすい。まちづくりの目標をもって伊達市の魅力をアピールし、伊達市に人を集めてほしい。</p> <p>将来像のイメージとして、基本目標4「安心・安全で住み良いまちづくり」、「都市と自然が調和するコンパクトなまち」と素案に出てくるが、バランスよく余裕をもったまちづくりのために、市街化調整区域はやめて欲しい。</p> <p>目標2の分野別施策3「生涯学習の推進と地域人材の育成」について、伊達市の国際化や優秀な若い人に住んでもらうことを考えるのであれば、市が既存施設を活用して学校誘致などを実施し、まちのイメージが良くなると若い人も集まるのではないかと。若い人がいると経済も活性化し、まちも変わると思うので、若い人を取り込むための施策を検討して欲しい。</p> <p>【市長】</p> <p>人口には自然増減と社会増減がある。伊達市は、平成4年から自然減が始まった。最近では生まれてくる人と死亡する人の差が300～400人と増えている。私が市長になったのは平成11年で、それから一時期は人口が増えた。しかし、平成19年頃から人口は減り始め、移住を希望する人はいるものの、土地がないという理由で諦めている人が多い。現在、伊達市の平均世帯人口（一世帯当たりの人口）は2を切っている。かつての世帯人口は3～4で、面積が小さくても多くの人住んでいた。しかし世帯人口はどんどん減り、特に旧市街地で減っている。現在、人口は減っているものの、世帯数は減っていない。</p> <p>市街化区域の規制については、都市計画法があり我々が決められないことである。今は国による規制が厳しく、人口を分散させないよう指導されている。過去にも人口を増やそうと都市計画区域を広げたいと道庁と協議してきたが、現在は新規では認められていない。我々が都市計画法を無視して市街化区域を変えることはできない。</p> <p>学校については、以前大学の誘致競争があり、伊達市は勝つことができなかった。その理由は、大学誘致をするには市が毎年大学の運営資金を現金で40億円用意するという条件を満たせ</p>	

なかったからである。今は少子化が進み、生徒を集められる保障はない。2003年に法律の規制緩和があり、その前に都心から地方に移った大学が、規制緩和により再び都心に戻ってきた。現在はまた規制を厳しくしようという動きがあるが、伊達市としては新たに大学をつくることは負担が大きく、相当難しい賭けだと考えている。

コンパクトシティとは、いかに効率的に行政運営するかという視点をもったまちづくりであり、すべての機能を市の中心に集めようという発想ではなく、それぞれの地域でまとまってもらうという意味である。たとえば、黄金地区では、高齢者に限り持ち家があっても公営住宅に入居できるようになっている。

【住民】

コンパクトシティは言葉が1人歩きしている。機能的なまちづくりは良いが、北海道にコンパクトというのはイメージに合わない。北海道は、広い大地でいろいろな可能性を秘めているのではないか。

【市長】

市民がさまざまな場所に点在して住んだ場合、行政サービスは提供できなくなってしまう、行政コストを皆さんに負担していただくことになる。しかし、住んでいるところを良くしたいのは当然である。たとえば、山の中に住んで、その一軒のために市のお金で除雪やごみ収集をするとすると、それは本当に適切な行政サービスなのかどうか、多くの市民は疑問を抱くのではないか。我々は、サービスのコストを下げ、皆さんの生活を直接支援していくほうが良いと考えている。

最近では、通販が原因で商業販売額は落ちている。店の誘致についても、民間に赤字を出させるわけにはいかない。それよりも、公共交通で支援したほうが良いと考えている。今後は75歳以上人口が増えるため、交通問題・年金問題が出てくる。以前、みどり団地を中心として生活実態調査を行ったところ、冷蔵庫を4つ持っている人や、2つ持っている人なども多くいた。その理由は、なかなか外に買い物に行けず、食材を買いだめしておく必要があるからであった。もっと気軽に買い物に行けるように、交通機関の在り方について検討していく。黄金は室蘭が近いので、製鉄記念病院の送迎バスや通勤送迎バスなどがいろいろと走っている。道南バスも住民のニーズにあっているかどうかを研究しないといけない。ドア to ドアの新たな交通サービスを考えていくためにも、公共交通については今後調査を進め、スクールバスも含め住民のコストをかけずに実施できることを考えていきたい。

【住民】

交通については、バス代が高いし車もお金がかかる。南黄金の道路は舗装していないところがたくさんある。市内中心部は整備の優先順位が高く、郊外は低いと思われかねない。

【市長】

車を1台持つと、価格や燃料によって違うが、平均すると月4万円前後かかる。車を持たず乗り合いタクシーでも1日千円で月3万円となり、夫婦なら倍の金額がかかる。考えながら値段の設定をしていく。車は事故のリスクもあり、最近ではブレーキとアクセルを間違える人も多いため、車社会の課題について対応策を考えていかなければならないと考えている。

【住民】

これからの10年間で夢のある黄金をつくってほしい。配布資料「このままでは厳しい時代の停滞が予想される」を見ていると、マイナスのことばかりで気が重くなる。しかし、「将来像の達成に向けた施策展開イメージ」を見ると、希望が持てる言葉がたくさんある。

黄金は人の気質が良く、住みやすさは人の心次第でもあると思う。自らの手でつくるまちとして、自立し、お互い助け合うことが大切である。黄金が希望を持てるような施策をお願いしたい。

【市長】

先ほどの道路舗装の件だが、以前、黄金地区で何とか舗装道路を増やそうと考えたことがある。関内は黄金に比べて舗装道路が多く、その違いは、黄金地区は農業振興区域に入っていない農地が非常に多いことであった。そのため、補助金の確保が難しく、舗装が遅れているのが現状である。農家の方に農業振興区域に入ってほしいとお願いしたこともあるが、農地を売らなくなったときに売買が難しくなることや、後継ぎがいなくて、農家以外に農地を売ることができないといった理由から断られた。

これから伊達市では、冬に野菜をつくっていきたいと考えており、黄金は、夏は霧が多いが冬の天候は安定しているため適していると思う。しかしデータがないので、根拠を説明できるように観測システムなどを取り入れて、投資や新規就農者の増加につなげていきたい。また、近年、国の支援制度が充実してきたため新規就農者が増えているので、今後は、都会から若い人が移り住んでくれるような仕組みを作っていきたい。

資料では厳しいことをいっているが、チャレンジして良いものを勝ちとりたい。そのためには民間にも頑張ってもらい、民間がやりやすい環境づくりに取り組んでいきたい。黄金地区では、農地を農業振興区域にいれ、農地が財産として認知してもらえるような仕組みを考えていきたい。

【住民】

人材育成について、伊達市は教育・学識関係者が多いので、優れた見識を反映することができるのではないかと。

これまで伊達市は箱物を整備してきたが、近隣市町と共有できるものがあるのではないかと。伊達市総合体育館は大規模で、人を呼べる施設であると思う。

情報ネットワークの整備について、地方にいと情報はなかなか得られない。地方の高齢者の安全、子どもたちの教育環境、そしてなにより生活環境を整えるうえでも、情報ネットワークの整備を検討していただきたい。

【市長】

箱物については、多くの建物が老朽化し耐用年数を大幅に超えていたので、さまざまな制度を活用して建設した。多くの箱物を建設したが、借金は減らし基金を増やしている。この 20 年間で職員を 4 割近く削減し、維持費も捻出している。今後予定している大きな建物の建設は火葬場である。借金管理をきちんとしているので、今後 10 年間で借金は半分になる予定である。

情報管理については、世代間で差がある。スマートフォンを持っているか否か、携帯電話を持っているか否かなど、世代間の差が大きい。災害についての情報は、市が支援してワイラジオを提供している。ラジオが流れているときに、行政機関が割り込める仕組みになっているため、普段ラジオを聴いている人は少ないかもしれないが、災害のときはぜひラジオを聴いて欲しい。

近年、ポケベルとラジオが一体となった機器ができ、今後普及してくるのではないかと。ポケベルの周波数は長いので、災害時でも通じやすいという特徴がある。今後の情報伝達手段の一つとして考えられる。

【教育長】

人材育成について、社会教育の部分では、市民カレッジや市民講座などを開催し、いろいろな経験・知識を持った方を講師としてお招きしてきた。今後も新しく伊達に入ってきた人が、自身の経験を生かせるよう情報を集めていきたい。

学校教育の部分では、現在伊達市内の小中学校すべてにコミュニティスクールを導入し、社会に開けた学校づくりのために仕組みをつくり、学校教育を通じて地域を盛り上げていくための取組を進めている。2020年には、小学校から中学校まで「だて学」を導入しようと検討している。子どもたちが「だて学」として地域を知り、どのような新しい地域を生み出せるか提案できるような人材育成の仕組みを作ろうと考えている。そのためには、学識経験者や地域の人に力を借りてやっていきたい。

また、「地元を大切に思う心、育む教育」にも力をいれていきたい。学校がどこかに集約されるとしても、子どもたちが自分の暮らしている地域を守ろうと考え、地域で活躍していけるような教育活動を組み込もうと考えている。

【住民】

地域懇談会を、5年前や10年前に開催しなかったのを残念に思う。

近年、空き家が増えているが若い人は増えない。子どもが歩いて学校に通えない場所に、人が来るとは思い難い。私の近所の人も、小学校にあがると同時に街中に引っ越すといっている。

本日配布された総合計画（案）には5つの基本計画があるが、それぞれの計画の10年後の達成率は何%と考えているのか。市役所内では10年後、現在総合計画を担当している人が他の部署に異動となるだろう。市役所に行くとか何かにつけて「前任者がやったことだからわからない、資料がない」などと言われる。そのため、目標を達成するまでは配置転換しないで欲しい。

【市長】

今回の総合計画は、住民参加を丁寧にやってきた。住民参加は簡単ではなく、いくら丁寧に行っても「聞いていない」「知らない」という住民も多い。若い人を80名ほど集めてワークショップを行っても、その日に初めて総合計画を知った、という人も多かった。「市民とともに」と言葉で言うのは簡単だが、説明会を何度開催したとしても、興味のない人はこない。しかし、市民に向けて説明をし、また市民の声を直接聞くことで、責任を持って総合計画をつくっていききたい。

計画は職員全員が共有しているので、異動しても変わらないように進めていく。

目標は、強い意志を持って達成を目指し、達成率については、目標を100%にしたいという気持ちはある。当然課題もあるが、計画になくてもやれるものもあると考えている。

学校について、小規模校でもうまくいっているときはあるが、田舎で夜が暗いため統合してほしいという保護者の意見や、子どもが少なすぎることによる教育的な課題もある。財政的な視点では、必ずしも統合が良いとは言い切れないが、子どもたちの立場に立つと、統合はやむを得ないと思う。

【住民】

目標達成について、分野別施策があるので、分野ごとに数値目標を設定して10年後どれだけ達成されたかを確認するのも方法の一つかと思う。

箱物について、国の補助ばかり考えてやってしまうと何が必要なのかわからなくなるので、それにとらわれないように気をつけて欲しい。

【企画財政部長】

指標については、分野別施策の一つひとつに指標を設定するのは難しいので、分野別施策の中から重点施策を導き、指標と目標を掲げている。

【市長】

箱物について、これまでの総合計画に記載があり、10～20年ほど必要と言われ続けていたものもあったが、お金がなくなかなかできなかった。今になって補助金が得られるようになり、つくれるようになったものもある。不必要なものは建っていないし、実際には、相当廃止したものもある。

【住民】

通学バスについて、通学に利用していない空き時間を一般用に活用できないか。
また、黄金小学校や達南中学校の跡地の活用について、どう考えているのか教えてほしい。

【市長】

スクールバスについては、調査をしてできるだけ活用したいと考えている。ただ、買い物の際は両手がふさがるのでバスは不便となり、ドア to ドアではないと困難だと聞いている。

学校の跡地利用については、達南中はグラウンドを活用したいと応募があったが、結局その話はなくなってしまった。黄金も公募をかける予定である。達南中は避難所になっており、すべてを売却することはできない。活用方法については、今後も検討を重ねる。

【住民】

50歳代に活躍してもらえるような働きかけをお願いしたい。

【市長】

私もいろいろな会議に参加しているが、ここ10年は出席者がどんどん減っている。減っているのは、団塊の世代が鍵となっており、定年延長によって仕事を続ける人が増えたことも要因かもしれない。仕事と地域活動の両立はなかなか難しく男性は引っ込み傾向にあるため、新たなコミュニティをつくろうと考えている。最初から自治会に参加するのではなく、趣味など気軽に参加できるようなコミュニティをつくっていききたい。機会があれば参加してほしい。

【住民】

達南中、黄金小と連続して学校がなくなるとまちの元気がなくなる。総合計画の目標達成は10年後ということで長いと感じる。10年と言わずできるだけ早く達成し、まちを明るくできるように取り組んでいただきたい。

【市長】

黄金は歴史があり、土地がある。企業誘致や農業振興など、人に住んでもらえるようなまちになるよう、全体の課題を踏まえながら取り組み、ピンチをチャンスにしていきたい。